

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

高2の時、オーフンキャンパスに参加してまがキャンパスの雰囲気と設備に心を動かされ、「ここで4年間音楽と学べたらどんなに良いだろう」と思いました。また音楽文化専攻の幅広い充実したカリキュラムや、就職者も多いことにも魅力を感じ、第1志望に決めました。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強、実技試験対策の進め方について。 ※音楽学科入試課題については、『2018年度音楽学科入試課題』で必ずご確認ください。

〔1学期〕

文化祭など、学校行事が忙しい1学期ですが、学校の授業や定期考査対策もあって、なかなか音楽を中心とした勉強には手をつけられずにいました。それでも楽典は基礎を固めることを目標とし、空いた時間にドリルを解いていました。実技の曲はまだ決めていなかったため、基礎練習を中心に練習をしていました。

〔夏休み〕

楽典は基礎のかたわら過去問を少しずつ解くようにしました。コールユーブゲンにはピアノの先生に指導して頂くようになりました。学科試験は赤本などで過去問の確認をしていました。実技の曲は決めきれずに2曲を選び、両方の曲とも練習していました。夏休みは自由な時間が多く、ついでに緩めがちですが、その時は大学の資料を取り寄せて自分のモチベーションを高めていました。

〔2学期～入試直前〕

実技で弾く曲の最終的な決定をし、毎日練習に取り組みました。私は家に電子ピアノが無かったため、昼休みに音楽室のピアノを借りて練習をしました。楽典は過去問を繰り返し解いて、入試直前には8割以上を取れるようにしました。また、12月に行われた冬期講習会に参加しました。入試についての情報が現場で直接入手でき、楽典の模倣テストや授業、実技とコールユーブゲンのレッスンや小論文対策など、内容がとても充実しているため、第1志望にするのであれば参加をお勧めします。学科試験での選択科目は国語にしたので、学校でのセンター対策の授業で対策をし、あとはスキマ時間に漢字帳や熟語辞典を見るようにしていました。また自分で音楽用語の暗記カードをつくり、これも何度も繰り返し見ていました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は部活動に所属していませんでしたが、行事を思いきり楽しみながら受験生活を送りました。文化祭では友人とバンドを組んでステージに立ち、合唱コンクールで伴奏を務めたことは、勉強や練習の合間の良い息抜きにもなりましたし、何より大好きな音楽と触れることで気分も明るくなりました。もちろん受験勉強中にスランプ状態になりかけたこともありましたが、その時は一度席を立ってピアノを弾いたり、試験曲以外の好きな曲を弾いてみたり...気分転換をして対処しました。ずっと同じ作業だと頭が働かなくなってしまうのでアリかと思っています。他の学科と違って試験期間も長く、体力的にも精神的にも辛くなるので、健康管理はしっかりしておくべきです。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験勉強は辛く、投げやりになってしまうこともあるかと思いますが、「これを乗り越えたら同志社女子大学に行ける!」と自分を励まして頑張ってください。本気でいきたいと思えば、決して乗り越えられない壁はありません。自分を信じて、頑張ってください。合格を掴み取ってください!!